平成２８年台湾青森りんご友の会情報交換会概要

１　日　時　平成 28 年 12 月１５日（木）午後３時～午後５時
２　場　所　王朝大酒家（台北市松山区敦化北路１００号）
３　出席者　台湾側：１４社・団体２２名、日本側：２６名、合計５２名
　（出席者名簿：別紙）
４　内容
（１）あいさつ
　①一般社団法人青森県りんご対策協議会　会長　加川雅人

　台湾青森りんご友の会の皆さん、お忙しい中、情報交換会に出席していただきありがとうございます。
　昨年青森りんごは３万６千３００トンの輸出をしました。そのうち台湾向けは２万７千３００トンの輸出となりました。これはひとえに台湾りんご友の会の皆様のご協力の賜物であると思う。この場を借りて感謝申し上げます。
　また、昨年から 10 月にトキのキャンペーンを実施しているが、今年も皆さんの協力で成功裏に終わった。
　今年産の青森りんごは、生産予想量 46 万 7 千 100 トンだが、りんごの玉が小さく生産量は減収するとみられている。最近輸出は止まっているようだが、今年産の台湾向け輸出の目標は 3 万トンだ。この目標達成のために、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたいと思っている。

②　馥農企業股份有限公司　李　高林
　りんご輸出協会太田理事長、りんご対策協議会加川会長はじめ、青森県から来ていただいた皆さん、台湾の同業の皆さんこんにちは。

台湾の市場を回ると、今年のりんごはサイズが小さく、価格が高いということで、関係者はこの問題を注視していた。放射性物質の関係では、新聞報道等の影響を受け事前予約、小売業者からの注文が減り、輸入業者は打撃を受けている。

会員は青森りんごが安全であることは理解しているが、消費者の理解が進んでいない。農薬・放射線に関する合格証のようなものが非常に有効と考えられるので、産地側の対応を望む。

（２）2016 年産りんごの生産状況と台湾への輸出について

青森りんごの生産状況については、青森県りんご果樹課鳴海課長から、台湾への輸出拡大に向けた取り組みついては、青森県国際経済課三上課長から、更に台湾における青森りんごの消費宣伝についてりんご対策協議会の高澤事務局長より、それぞれ資料に沿って説明がなされた。（別添資料１から３参照）

（鳴海りんご果樹課長）

（三上国際経済課長）

（高澤りん対協事務局長）

資料説明に出てくる、販促グッズ（ジャンパー、ポスター）が、会議の席上台湾側代表の馥農企業股份有限公司李高林総経理にりん対協加川会長とミスりんご小野さんから贈呈された。

（３）情報交換（座長：青森県りんご輸出協会北山常務）

【情勢報告】

＜台灣瓦克國際(股)公司　李　昭志＞

今年の青森産は数量が少なく価格が高いことや、9 月 10 月が円高だったこともあって、早生種の段階から台湾側でピリピリした状況だった。

トキのスタート時は、価格が高かったが、数が少なく良い成績であった。それ以降のシナノスイート、群馬名月、王林、サンふじ、有袋ふじになって、台湾国内での販売が困難になった。中秋節以降はそれほど売れない時期であり、台湾の経済状況も悪い。高いものは特に売れない。マスコミ報道により、消費者が放射線のことを思い出した。販売環境が良くない中で、我々も影響を受けている。この問題にすぐ対応するよう農業委員会・交流協会にアドバイスした。

→＜県国際経済課三上課長＞
**　福島原発事項以来、青森りんごは定期的に検査し、今まで一度も放射能は検出されていない。検査結果はメールでお伝えしているし、今後も継続して青森りんごの安全性を伝えたい。今三村知事も台湾に来ているので、知事の方からも青森りんごの安全性をアピールしたい。**

＜全興青果行　陳　乾隆＞
　安全・安心のコマーシャルは放射性物質の検査方法、結果をＣＭやネットで広告して欲しい。一般の人は合格証を見ても理解しない。テレビやネットなど色々な方法でＰＲしてほしい。

→＜高澤局長＞
　2011 年の震災以降、マスコミにはＰＲしてきた。6 年間の取組でマスコミとの関係も強化された。このネットワークを活用し、正しい情報を発信していきたい。12 月、１月に 250 店舗で試食宣伝を行うが、消費者にも伝えていきたい。

→＜太田理事長＞
　青森のりんごは大丈夫。台湾側で検査するのが一番。過去にも全て政府が検査し、風評が収まった。政府にお願いできないか。

→＜日豪貿易　黄吉利＞
　今年は輸入業者にとって青森りんごは売りにくい状況である。このような事態にすぐ対応するために、ワシントンりんご協会台湾事務所のようなものを青森県でもできないのか。市場調査やプロモーションができるし、年１回の会議ではなく、随時、情報収集できる。一般消費者へのキャンペーンの告知などにフェイスブックやＱＲコードの活用を検討して欲しい。

→＜太田理事長＞
　昔香港に県事務所があったこともある。三村知事に提案してみる。

→＜新店得利青果行　鄒志強＞
　これまでのＣＭは、健康・味を前面に出しているが、現状に合わない。青森が福島から 500 ㎞以上離れていることを台湾の消費者に認識してもらいたい。

→＜高澤局長＞
　ポスターの配布等は現地の事務所を通じて行っている。事務所の活動を強化していくことは可能。フェイスブック、ＷＥＢ活用を含めて来年度取り組んでいく。

　→＜祥發水果行　黄俊穎＞
　新聞による影響は、新聞で対応すべき。また、多くの人が目にするフェイブックを活用して欲しい。

　→＜翔隆水果行　陳俊翔＞
　りんご１個１個にＱＲコード等を貼り付け、スマホで読み取ると生産者情報がわかるようなシステムを取り入れたらどうか？

　→＜加川会長＞
　宣伝については検討する。放射性物質のことは県でも対応している。

＜座長：北山敏光＞
　色々なご意見をいただきありがとうございました。予定した時間となりましたので、意見交換を閉じさせていただきます。皆さんご苦労様でした。

以上（座長：青森県りんご対策協議会・青森県りんご輸出協会常務理事　北山敏光）
　　総合司会：青森県りんご輸出協会　事務局長　深澤　守）

資料１　　２０１６年産りんごの生産状況について

１　りんごの生育ステージ

３月の気温が高めに推移したことから、りんごの開花日は平年より３～４日早まりました。

表１　りんごの生育ステージ　　りんご研究所（黒石市）

品　種	年　次	発芽日	開花日	満開日	落花日
ふ　じ	本　年	4月 2日	5月 4日	5月 8日	5月12日
	平　年	4月 9日	5月 8日	5月13日	5月17日
	平年差	早 7日	早 4日	早 5日	早 5日
つがる	本　年	4月 1日	5月 4日	5月 8日	5月13日
	平　年	4月 8日	5月 8日	5月13日	5月18日
	平年差	早 7日	早 4日	早 5日	早 5日
ジョナゴールド	本　年	3月30日	5月 3日	5月 7日	5月12日
	平　年	4月 6日	5月 7日	5月13日	5月17日
	平年差	早 7日	早 4日	早 6日	早 5日
王　林	本　年	3月31日	5月 3日	5月 6日	5月11日
	平　年	4月 8日	5月 6日	5月12日	5月16日
	平年差	早 8日	早 3日	早 6日	早 5日

注）平年値：1996 年から 2015 年までの 20 か年平均。

２　果実の肥大状況

開花が平年より早く、初期肥大は平年を大幅に上回るスタートでしたが、春先から８月前半までの少雨の影響により肥大の伸びが鈍化し、「無袋ふじ」の１１月１日の調査では、横径の平年比が９８％となっています。

表２　りんご果実肥大経過（横径）　　りんご研究所（黒石市）

品　種	調査日	本　年 (cm)	平　年 (cm)	前　年 (cm)	平年比 (%)	前年比 (%)
ふ　じ	11月 1日	8.7	8.9	8.9	98	98
つがる	9月11日	8.7	8.8	9.1	99	96
ジョナゴールド	10月21日	9.3	9.4	9.6	99	97

注）平年値：1996 年～2015 年の 20 か年平均。

３　２０１６年産りんごの予想収穫量

２０１６年産りんごは、開花量が多かったことから着果量は十分確保されています。また、果実肥大は、前年ほどではないものの、８月１日の調査時点で、平年を上回っています。

これから、２０１６年産りんごの予想収穫量は、大玉で豊作傾向であった前年収穫量より２，９００トン少ないものの､過去１０か年の収穫量実績値平均４４万６，６００トンを上回る、４６万７，１００トンが見込まれています。

表３　２０１６年産りんごの予想収穫量（２０１６年８月１日現在）

品　種	結果樹面積 (ha)	予想収穫量 （ｔ）	前年収穫量 （ｔ）	前年収穫量との差（ｔ）	前年対比 (%)
つ　が　る	2,280	43,300	50,400	-7,100	86
ｼﾞｮﾅｺﾞｰﾙﾄﾞ	2,020	42,400	44,700	-2,300	95
王　　林	2,170	45,600	48,400	-2,800	94
ふ　　じ	9,600	249,600	235,700	+13,900	106
そ　の　他	3,830	86,200	90,800	-4,600	95
計	19,900	467,100	470,000	-2,900	99

注）１　結果樹面積は、県りんご果樹課推定値
　　２　前年収穫量は、国公表の実績値
　　３　前年対比は、前年収穫量に対する比率

４　病害虫の発生状況等

一部で病害の発生が多かったですが、それ以外は少ない状況です。

台湾向け輸出りんごについては、登録選果こん包施設事業者に対し、モモシンクイガ被害果実の排除の徹底等に関する研修会を開催したほか、台湾の農薬残留基準値の設定状況について、県ホームページへ掲載し、広く周知に努めています。

５　２０１６年産りんごの品質

２０１６年産の果実は､各品種とも前年に比べやや小玉傾向となっていますが、果実品質は、糖度、着色とも良好な仕上がりとなりました。

資料２　　りんご輸出拡大に向けた青森県の取組について

１　輸出の現状と目標

青森県では、青森りんごの輸出目標数量を本年９月に３万トンから４万トンに引き上げて、台湾をはじめとする東アジアや経済成長著しい東南アジアを主なターゲットに輸出拡大に取り組んでいます。

その中で最も重要な輸出先に位置づけているのが台湾であり、全輸出量の約８割が台湾向けとなっています。

（１）りんご輸出実績

（単位：トン、%）

年産	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
全体数量	25,497	22,256	23,867	17,940	9,867	14,898	19,889	30,115	36,304
台湾向け数量	23,878 (93.6)	20,498 (92.1)	21,656 (90.7)	15,912 (88.7)	8,459 (85.7)	13,214 (88.7)	16,561 (83.3)	23,417 (77.8)	27,301 (75.2)

注：（　）は輸出量全体に占める割合

台湾向けについては、２００９年産まで連続して２万トンを超えていましたが、２０１０年産以降は、世界的な景気後退や記録的な円高等により減少し、特に、２０１１年産では不作に伴う産地価格の高騰もあって激減しました。

それ以降、台湾の販売関係者の皆様の御協力により徐々に回復し、２０１５年産は、過去最高の２万７，３０１トンとなっています。

（２）今年産りんごの輸出希望数量

２０１６年産輸出希望数量	台湾　３万トン以上

２０１６年産のりんごは、過去１０か年の収穫量実績値平均を約２万トン上回る４６万７，１００トンの収穫量が見込まれており、十分な生産量を確保できる見通しです。　　青森県では、今後の生産管理に万全を期して、高品質・良食味なりんごを皆様に供給したいと考えています。

本年産の輸出量が台湾で３万トン以上になるよう御協力をお願いします。

２　輸出対策

台湾の皆様に安全・安心、高品質で美味しい青森りんごを提供するため、青森県では関係者一同力を合わせて次の対策に取り組んでいます。

（１）生産・流通対策

①農薬の適正使用により、病害虫の防除を徹底します。

②黄色品種については「カラーチャート」の利用による適期収穫を徹底します。

③炭酸ガス障害（褐変）防止対策に取り組みます。

（２）輸出拡大対策

①りんご生産者等の輸出を目指したりんご生産への意識を高め、高品質で良食味な生産により青森りんごの競争力を強化します。

②台湾のりんご販売関係者の産地招へいや産地情報の提供により、双方の信頼関係を強化します。

実施時期	内　容
2016 年 10 月	**○台湾の販売関係者の産地招へい** 県りんご輸出協会が設立した「台湾青森りんご友の会」の会員である台湾の輸入業者等を招へいし、産地視察や関係者・生産者との意見交換会を実施
2016 年 12 月	**○台湾での販売状況調査・意見交換会** 生産者が台湾における店頭販売や市場調査を通じて販売状況を把握するとともに、台湾の販売関係者との意見交換会を実施 **○知事トップセールス** 青森りんごキャンペーンにおける試食宣伝販売等でのＰＲ
2017 年 2 月	**○輸出対策の検討** 販売状況調査や意見交換会の結果を踏まえ、今後の輸出対策を検討

資料３　　２０１６年度青森りんご輸出宣伝事業について

台湾における青森りんご宣伝事業

（１）「トキ」キャンペーンの実施

１０月８日(土)～　家楽福（新店、桂林店)、大潤発（南湖店）　JASONS２１店舗

販売スタッフによる試食販売を実施する
ほかミスりんごによるPRやクイズ大会
などのステージイベントを行う。

（２）「Wellcome」とのタイアップ企画

１０月１２日(水)　　青森りんごフェア共同発表
１０月１３日(木)～　青森りんごフェア開催、
テレビCM放映、各媒体露出

（３）台湾マスメディア産地招待事業

台湾の人気タレントを招待し産地を巡り話題を提供、これに雑誌、テレビなどのメディアが同行し記事や番組として情報を発信する。

日　　程：１０月１９日(水)～２２日(土)
参加者：林逸欣（タレント）
新聞（自由時報、中国時報、聯合報)、
テレビ局（民視FTV、八大GTV）ほか

（４）小売店でのＰＲイベント及び試食宣伝

試食ＰＲ、キャラバンイベント、ステージイベント2016年12月～2017年１月

- Wellcome　　１１月(200店)
- JASONS　　１２月～１月(21店舗)
- 台灣楓康超市　　１２月(10店舗)
- 大潤發 RTマート　１２月(19店舗)
- カルフール　　１月(20店舗)
- 太平洋SOGO忠孝店　　１月

（５）企業向け青森りんご試食会

雑誌出版社や旅行組合などとタイアップし社員や組合員を対象とした試食宣伝、りんご配布、物販ブースを設置しPRをおこなう。

（６）販売促進資材の作製、配布

うちわ

鮮度保持袋

販促フラッグ

ポスター

トキリーフレット

（７）流通関係者との会議、行政関係機関等訪問など

台湾友の会との意見交換会

行政関係機関訪問

幼稚園、福祉施設訪問

（８）テレビ宣伝

テレビＣＭ（トキ編：10 月､こだわり編：１２月～１月）

ケーブルテレビＣＭ（こだわり編：１２月～１月）タイアップ情報番組

（９）雑誌への記事、広告掲載

新聞：自由時報、聯合報、アップルデーリー、
中国時報

雑誌：「康健」
「壹週刊」
「媽媽寶寶」

（10）新北市果菜市場への広告看板掲出

28年12月台湾青森りんご友の会情報交換会出席者名簿

台湾側

公　司　名	参加者名	情報交換会出席	懇親会出席
馥農企業股份有限公司	李　高林	○	○
馥農企業股份有限公司	李　婉諭	○	○
台灣瓦克國際(股)公司	李　昭志	○	○
日豪貿易有限公司	黄　吉利	○	○
日盈國際有限公司	黄　文博	○	○
全興青果行	陳　乾隆	○	○
全興青果行	陳　薇雅	○	○
新店得利水果行	鄒　志強	○	○
新店得利水果行	黄　静慧	○	○
三貴水果行	潘　志謙	○	○
三貴水果行	李　至展	○	○
祥發水果行	黄　俊穎	○	○
祥發水果行	岡戸　ちひろ	○	○
瑞果水果行	陳　瑞淇	○	○
瑞果水果行	沈　静怙	○	○
元裕水果行	王　淑甘	○	○
元裕水果行	林　福来	○	○
翔隆水果行	廖　淑卿	○	○
翔隆水果行	陳　俊翔	○	○
三郎水果行	黄　萬賀	○	○
三郎水果行	蔡　金花	○	○
瑞得水果行	呉　易輯	○	○
瑞得水果行	陳　育珍	○	○
吉成水果行	林　忠賢	○	○
吉成水果行	謝　善有	○	○
合　　計		２５名	２５名

日本側

所　　属	職　　名	氏　　名	懇親会出席
青森県農林水産部	部長	油川　潤一	○懇親会から
青森県農林水産部りんご果樹課	課長	鳴海　和人	○
青森県農林水産部りんご果樹課	総括主幹	藤森　洋貴	
青森県農林水産部りんご果樹課	主幹	間山　三起夫	
青森県国際戦略局国際経済課	課長	三上　洋輝	○
青森県国際戦略局国際経済課	総括主幹	長内　昌彦	○
青森県国際戦略局国際経済課	主幹	佐藤　新吾	○
全農青森県本部	県本部長	太田　修	○
全農青森県本部りんご課	課長代理	竹達　広治	○
津軽りんご市場	副社長	石戸谷　繁	○
弘果総合研究開発（株）	部長代理	野崎　富栄	○
弘前市	りんご生産者	兜森　浩伸	
黒石市	りんご生産者	木村　篤志	
五所川原市	りんご生産者	外崎　高逸	
五所川原市	りんご生産者	阿部　賀奈子	
黒石市	りんご生産者	村元　幸生	
平川市	りんご生産者	原田　享	
五所川原市	りんご生産者	小林　常人	
板柳町	りんご生産者	中畑　元男	
青森県りんご対策協議会	会長	加川　雅人	○
青森県りんご対策協議会	副会長	三上　道廣	○
青森県りんご対策協議会	事務局長	高澤　至	○
青森県りんご対策協議会	事務局	太田　優	○
青森県りんご対策協議会	ミスりんご	小野　笑美	○
青森県りんご対策協議会	ミスりんご	相馬　澄佳	○懇親会から
青森県りんご輸出協会	理事長	太田　一民	○
青森県りんご輸出協会	常務理事	北山　敏光	○
青森県りんご輸出協会	事務局長	深澤　守	○
合　計		２６名	１８名

通訳　運盈商事社長　鈴木　明達

出席者数　情報交換会　５２名（通訳含む）
　　懇親会　　４４名（通訳･ミス２名含む）